

令和7年度全国学力・学習状況調査 上砂川町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:1校、児童数:6人 中学校数:1校、生徒数:10人

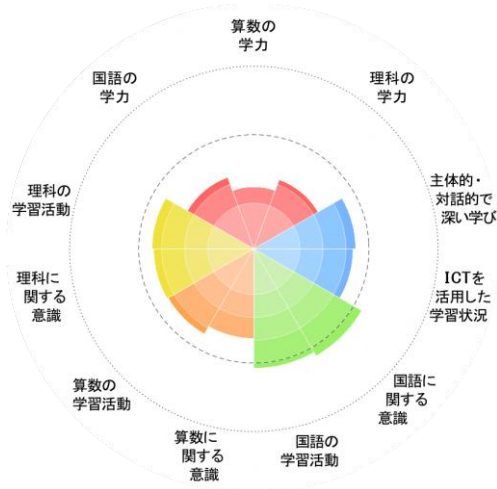
○ 教科に関する調査の状況

【結果チャート】

・教科等対応一覧表の領域別に全国を100とした場合の状況を結果チャートで示したもの

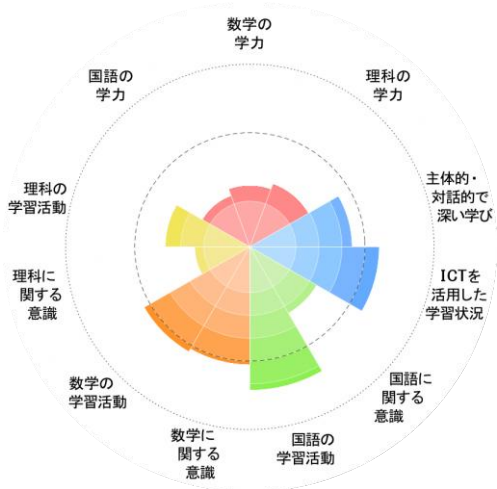
小学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



中学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
上砂川町	54	36	43	37	23	414
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

＜令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童・生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)～(51)
8	算数に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数の学習活動	(54)(57)～(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)～(65)
11	理科の学習活動	(62)(66)～(70)

※領域番号1～3については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。

※領域番号4～11については、「小学校児童質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	数学の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)～(51)
8	数学に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	数学の学習活動	(54)(57)～(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)～(66)
11	理科の学習活動	(62)(67)～(70)

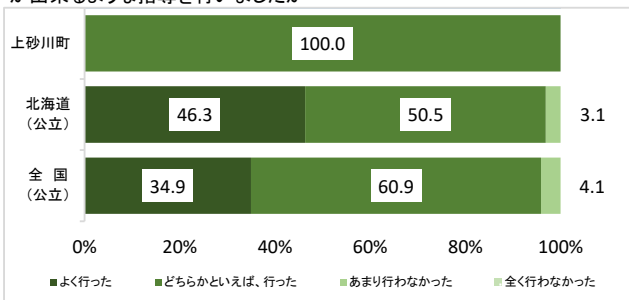
※領域番号1～2については、各教科の全国平均正答率を、領域番号3については全国平均IRTスコアを基準として比較したものである。

※領域番号4～11については、「中学校生徒質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

○ 質問調査の状況

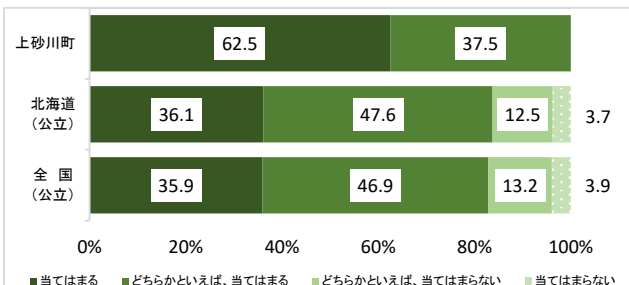
小学校 ＜学校質問＞

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことが出来るような指導を行いましたか



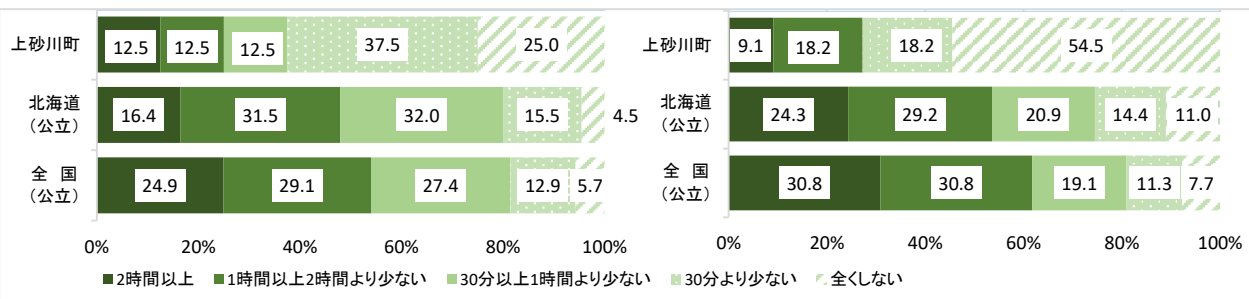
小学校 ＜児童質問＞

国語の授業の内容はよく分かりますか



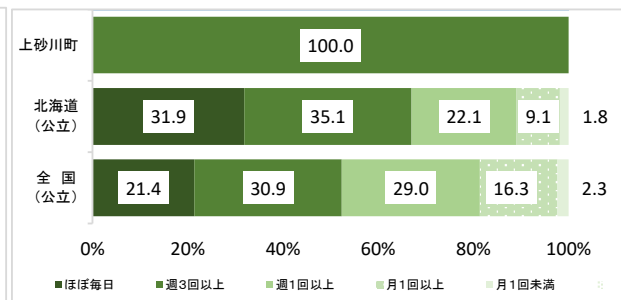
小学校 ＜児童・生徒質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



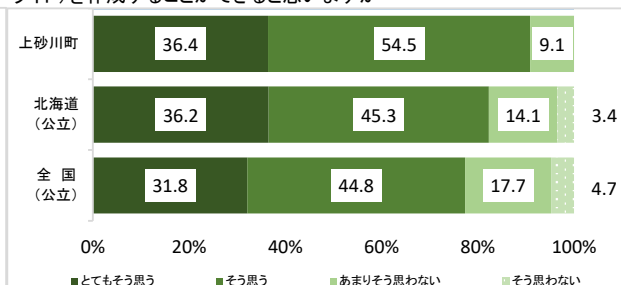
中学校 ＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

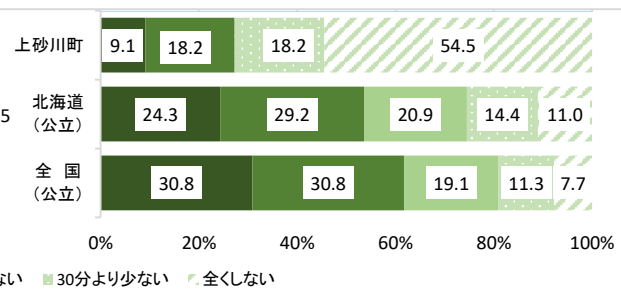


中学校 ＜生徒質問＞

PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか



中学校



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校の国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わる様子的書き表し方を工夫して文章を書くことができるよう指導したことにより、書くことの平均正答率及び国語の授業がよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思うと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、学校の授業時間以外に勉強すると回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っており、予習復習が習慣化していないことが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・ 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることによる児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- ・ タブレットの教材ソフトを活用した分かりやすい家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- ・ 小学校の外国語教育の充実と一部教科担任制の導入